

活動記録

1 規定等

(1) 愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター規則

平成31年4月1日、規則第25号

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第30条第2項の規定に基づき、愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター(以下「センター」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、四国遍路の歴史的諸相及び現代の多様な実態を学際的に解明し、日本及び世界各地の巡礼との比較研究を行うとともに、学術面から地域文化の発展に貢献することを目的とする。

(研究部門)

第3条 前条の目的を達成するために、センターに次の各号に掲げる研究部門を置く。

- (1) 国内研究部門
- (2) 国際研究部門

(組織)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 兼任教員
- (3) 協力研究員
- (4) その他必要な職員(以下「センター職員」という。)

2 センターに、前項のほか、副センター長及び特定職員である教員を置くことができる。

(管理機関)

第5条 センターの管理運営に関する重要な事項は、愛媛大学社会連携推進機構社会連携推進会議(以下「推進会議」という。)において審議する。

(運営委員会)

第6条 センターの運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(センター長)

第7条 センター長は、愛媛大学(以下「本学」という。)の専任の教授のうちから推進会議が推薦し、学長が選考する。

2 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副センター長)

第8条 副センター長は、本学の専任教員又は特定職員である教員のうちから、センター長が当該教員の所属する部局等の長の同意を得て推薦し、学長が選考する。

2 副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、副センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(兼任教員)

第9条 兼任教員は、本学の専任教員及び特定職員である教員のうちから、センター長が当該教員の所属する部局等の長の同意を得て推薦し、学長が任命する。

2 兼任教員の任期は、2年以内とし、再任を妨げない。
(協力研究員)

第10条 協力研究員は、本学の専任教員及び名誉教授のうちから、センター長が委嘱する。

2 協力研究員の任期は、2年以内とし、再任を妨げない。
(職務)

第11条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐し、センター長が不在又は事故があるときは、その職務を代行する。

3 センターの特定職員である教員は、センター長の職務を助け、センターの業務を遂行する。

4 兼任教員は、センターの業務を遂行する。

5 協力研究員は、センターの業務に協力する。

6 センター職員は、センターの業務に従事する。

(客員研究員)

第12条 センターに、客員研究員を置くことができる。

2 客員研究員の選考は、愛媛大学客員研究員規程の定めるところによる。

(研究協力者)

第13条 センターに、研究協力者を置くことができる。

2 研究協力者は、センター長があらかじめ定めた期間、センターの研究活動を補助する。

3 研究協力者は、センターの研究に係る知識及び経験を有する者の中から、センター長が委嘱する。

(事務)

第14条 センターに関する事務は、社会連携支援部及び法文学部事務課において処理する。

(雑則)

第15条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成31年4月1日から施行する。

2 愛媛大学法文学部附属四国遍路・世界の巡礼研究センター規程(平成27年4月1日制定)は、廃止する。

(2) 愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター運営委員会規程

平成31年4月1日制定・規則第26号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター規則第6条第2項の規定に基づき、愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター(以下「センター」という。)の運営に係る基本事項に関すること。
- (2) センターの予算及び決算に関すること。
- (3) その他センターの運営に関すること。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長(副センター長を置く場合に限る。)

- (3) センターの特定職員である教員（特定職員である教員を置く場合に限る。）
- (4) センターの兼任教員 若干人
- (5) 社会連携支援部長
- (6) その他委員長が必要と認めたる者
- 2 前項第4号の委員は、センター長が指名する。
- 3 第1項第6号の委員は、運営委員会の議を経て委員長が推薦し、学長が任命する。
- 4 第1項第6号の委員の任期は、センター長の任期の末日を超えない範囲でセンター長が定めることとし、再任を妨げない。
- （委員長）
- 第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。
- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。
- （議事）
- 第5条 運営委員会は、委員（代理者を含む。以下同じ。）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。
- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- （委員以外の者の出席）
- 第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。
- （専門委員会）
- 第7条 運営委員会は、専門的事項を調査検討するため、専門委員会を置くことができる。
- 2 専門委員会に関する事項は、運営委員会が定める。
- （事務）
- 第8条 運営委員会に関する事務は、社会連携支援部において処理する。
- （雑則）
- 第9条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定める。
- 附 則
- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 愛媛大学法文学部附属四国遍路・世界の巡礼研究センター運営委員会規程（平成27年4月1日制定）は、廃止する。
- (3) 愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター支援基金規程 平成31年4月1日・規則第27号（設置）
- 第1条 愛媛大学に、愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター支援基金（以下「四国遍路研究基金」という。）を置く。
- （目的）
- 第2条 四国遍路研究基金は、愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター（以下「センター」という。）の研究、教育、地域貢献の充実等に資することを目的とする。
- （事業）
- 第3条 四国遍路研究基金は、前条の目的を達成するための事業に充てる。
- （基金の構成）
- 第4条 四国遍路研究基金は、四国遍路研究基金への寄附金

をもって構成する。

（基金の管理運営）

第5条 四国遍路研究基金の管理運営に関する事項は、センター運営委員会の議を経て、センター長が決定する。

（寄附金の受入等）

第6条 四国遍路研究基金への寄附金の受入れ等に関しては、国立大学法人愛媛大学寄附金取扱規則の定めるところによる。

（事業年度）

第7条 四国遍路研究基金の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。

（事務）

第8条 四国遍路研究基金に関する事務は、社会連携支援部及び法文学部事務課において処理する。

（雑則）

第9条 この規程に定めるもののほか、四国遍路研究基金に関して必要な事項は別に定める。

附 則

1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。

2 愛媛大学法文学部附属四国遍路・世界の巡礼研究センター支援基金規程（平成29年1月18日制定）は、廃止する。

(4) センター紀要投稿規程

1 四国遍路・世界の巡礼研究センターの発行する研究紀要『四国遍路と世界の巡礼』へ投稿できる原稿の内容は、四国遍路と世界の巡礼に関する研究論文、資料紹介、書評等とする。

2 投稿資格は、同センターの構成員（センター員、協力研究員）とする。但し、同センターの開催する研究会で報告するなどして、同センターから投稿依頼を受けた者も資格を有する。

3 同センター長は、本書の編集に関して、若干名の編集委員を指名して、編集を行うことができる。編集委員は年度毎に、予算の範囲で、本書の内容・分量を定め、編集を行い、投稿者に掲載の有無等を連絡する。

4 本文は、日本語の場合、A4縦判、横書き、10ポイント、48字×46行、9頁（400字詰原稿用紙50枚）以内とし、外国語や縦書き記載を希望する場合もこれに準じるものとする。但し、頁数は、編集上の理由で増減することがある。上記内容には、題名、著者名、所属、15～18行程度の英語要約文、参考文献、図表・写真、本文日本語訳等を含む。

5 要約文の締め切りは11月30日、本文の締め切りは1月10日を原則とする。締め切りの変更がある場合は、編集委員から連絡する。

6 原稿は原則として、編集委員もしくは同センター宛に電子データをメールで投稿する（センターアドレス：henro_c@stu.ehime-u.ac.jp）。

7 写真・図版の掲載許可は、著者が行い、掲載必要経費も著者が負担する。

8 原稿は原則として、本書刊行後、一定期間を経て、同センターホームページや愛媛大学図書館ホームページで公開するものとする。公開を希望しない場合は、事前に申し出るものとする。

附 則

本規程は、平成28年7月1日より施行する。

(5)『四国八十八箇所霊場と遍路道』世界遺産登録推進協議会 普遍的価値の証明部会と国立大学法人愛媛大学 四国遍路・世界の巡礼研究センターとの連携協力に関する協定書 令和2年1月25日締結

『四国八十八箇所霊場と遍路道』世界遺産登録推進協議会 普遍的価値の証明部会（以下「甲」という。）と、国立大学法人愛媛大学 四国遍路・世界の巡礼研究センター（以下「乙」という。）は、四国遍路の基礎研究や国内外の類似資産に関する資料収集や比較研究などを通じて、四国遍路の世界遺産登録に向けて協力するため、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は甲及び乙それぞれが有する知識や情報等を活用しながら、我が国を代表する巡礼文化である四国遍路の適切な保全を行い、四国の活性化を図るため、四国遍路の世界遺産登録を目指す活動に連携・協力して取り組むことを目的とする。

（連携協力事業）

第2条 甲及び乙は、前条の目的を実現するために、次に掲げる事項について連携し協力する。

- (1) 四国遍路の歴史や民俗など諸分野における調査研究に関すること。
- (2) 四国遍路の国内外の類似資産についての情報収集や調査研究に関すること。
- (3) 研究成果の公開や啓発活動による四国の地域活性化に関すること。
- (4) その他甲及び乙が必要と認めること。

（連携事業の実施）

3条 前条に掲げる事業等の具体的な実施に関しては、この協定に基づき、双方で協議して行う。

（秘密等の保持）

第4条 甲及び乙は、連携により知り得た秘密及び関係者の個人情報、相手方の事前の承諾なく第三者に提供若しくは漏洩し、又は第1条に規定する目的以外に利用してはならない。

2 甲及び乙は、この協定が次条の有効期間の満了又は第6条による解除により効力を失った後も、前項の規定による秘密保持等の義務を負う。

（協定の有効期間）

第5条 この協定の有効期間は、締結日から3年間とする。ただし、有効期間満了の日の30日前までに、甲又は乙のいずれからも申出がない場合は、さらに3年間延長するものとし、その後も同様とする。

（協定の解除）

第6条 甲及び乙は、相手方に対して30日前までに書面による通知をなすことにより、相手方に何らの責任を負うことなく本協定を解除できる。

（連絡窓口の設置）

第7条 甲及び乙の連携協力を円滑かつ効果的に推進するため、甲は『四国八十八箇所霊場と遍路道』世界遺産登録推進協議会内に、乙は乙内に窓口を設置する。

（その他）

第8条 この協定に定めのない事項及びこの協定に関し疑義が生じた場合は、甲及び乙が誠実に協議の上、決定する。この協定の成立を証するため、本協定書を2部作成し、そ

れぞれ1部を保有する。

令和2年1月25日

甲 『四国八十八箇所霊場と遍路道』世界遺産登録推進協議会 普遍的価値の証明部会 部会長 寛 善行

乙 国立大学法人愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター センター長 胡 光

(6) 研究部門と構成員

二つの研究部門を設けて、連携をとりながら学際的共同研究と地域貢献を進める。法文学部本館2階の一室を共同研究室ならびに収蔵施設として利用する。

①国内研究部門

四国遍路や日本の巡礼の古代から現代までの歴史的諸相を、学際的に解明するとともに、現代遍路の多様な実態を社会学的調査などを用いて具体的に明らかにする。

〈歴史文化研究班〉

胡 光	法文学部（日本史）◎
中川 未来	法文学部（日本史）
川島 佳弘	法文学部（日本史）4.1～
西 耕生	法文学部（日本文学）○
神楽岡幼子	法文学部（日本文学）
田中 尚子	法文学部（日本文学）
青木 亮人	教育学部（日本文学）*
内田九州男	愛媛大学名誉教授（日本史）*
寺内 浩	愛媛大学名誉教授（日本史）*
川岡 勉	愛媛大学名誉教授（日本史）* 4.1～

〈現代社会研究班〉

兼子 純	法文学部（地理学）
石黒 聡士	法文学部（地理学）
野崎 賢也	法文学部（社会学）*
井口 梓	社会共創学部（観光文化論）*
竹内 康博	愛媛大学名誉教授（民法）*
竹川 郁雄	愛媛大学名誉教授（社会学）*

②国際研究部門

世界各地に数多く存在する巡礼の歴史や現在の実態を明らかにするとともに、四国遍路との国際比較を行う。

高橋 弘臣	法文学部（アジア史）○
水野 卓	法文学部（アジア史）
齋藤 貴弘	法文学部（西洋史）
中根 隆行	法文学部（比較文学）
田島 篤史	法文学部（ドイツ文化）
山川 廣司	愛媛大学名誉教授（西洋史）*
加藤 好文	愛媛大学名誉教授（英米文化）*
吉田 正広	愛媛大学名誉教授（西洋史）*
菅谷 成子	愛媛大学名誉教授（東南アジア史）*

【註】◎センター長、○副センター長

無印:兼任教員、* 協力研究員（12.31現在）

〈運営委員会〉

胡光（委員長）、西耕生、高橋弘臣、中川未来、藤田英之（社会連携支援部長）

2 活動記録と社会の動き

【令和5年1月1日～12月31日】

- 1月5日 センター編『四国遍路と世界の巡礼(上)』(創風社出版)、青木亮人『愛媛 文学の面影』東予編・中予編・南予編(創風社出版)が愛媛出版文化賞受賞
- 1月5日 社会連携推進機構長挨拶(胡)、学長挨拶(胡)
- 1月6日 松平公益会打合せ(胡)高松市
- 1月12日 新居浜市史編纂室来訪(胡)
- 1月13日 社会連携企画会議(胡)
- 1月16日 新居浜市史会議(胡)新居浜市
- 1月18日 教育研究評議会(胡)
- 1月20日 高知県史会議(胡)オンライン
- 1月20日 松山大学講義「四国遍路と世界遺産」(胡)
- *1月20日 石鎚黒茶の製造技術が重要無形民俗文化財として国指定の答申(報告書胡執筆分担)
- 1月23日 愛媛出版文化賞受賞式(青木・胡)松山市
- 1月24日 社会連携推進会議(胡)
- 1月26日 新居浜市史編纂室来訪(胡)
- 1月27日 伊予銀行来訪(胡)
- 1月28・29日 第9回全国史料ネット研究交流集会「資料の所在をいかに把握するか」(中川)宮崎市
- 1月31日 学長打合せ(胡)
- 2月1日 毎日新聞取材(胡)3月24日掲載
- 2月2日 生涯学習センター資料運搬(胡ほか)松山市
- 2月3日 宇和島市資料評価会議(胡)宇和島市
- 2月8日 愛媛県文化振興財団文化講座「愛媛俳句、文化講座08 吉野義子、林美美子、今井つる女、品川鈴子、河村みゆきなど」(青木)松山市
- 2月8日 教育研究評議会(胡)
- 2月9日 社会連携企画会議(胡)
- 2月10日 大野原郷土史講座「弘法大師生誕地論争」(胡)
- 2月14日 旅の手帖取材対応(胡)5月号掲載
- 2月16・17日 生涯学習センター調査(胡)
- 2月18・19日 地域歴史文化フォーラム愛媛(胡・中川)大洲市、丸亀市
- 2月20・21日 阿波国分寺調査(胡ほか)徳島城博物館
- 2月21日 社会連携推進会議(胡)オンライン
- 2月22日 愛媛県文化振興財団文化講座「愛媛俳句、文化講座09 外泊の潮風、興居島の蜜柑、大三島の芋地蔵」(青木)
- 2月24日 松山商工会議所打合せ(胡)松山市
- 2月24日 西条神社打合せ(胡)西条市
- 2月27日 松山商工会議所講演(胡)松山市
- 2月28日 朝日新聞取材対応(胡)
- 3月1日 愛媛県庁四国遍路史料集会議(胡・川岡・寺内)
- 3月2日 文系シンポ打合せ(青木・胡)
- 3月3日 高松城整備会議(胡)高松市
- 3月4・5日 熊本大学科研シンポジウム(胡)熊本市
- 3月6日 香川県庁世界遺産会議(胡)高松市
- 3月7日 文系シンポジウム「地域と学術研究—愛媛大学の文系研究最前線」(南加記念ホール)
- 【挨拶】仁科弘重学長【講演】「四国遍路と世界の巡礼」胡光、「糸・紙・織の造型」千代田憲子、「愛媛文学の面影」青木亮人、「景況調査がとらえる地域経済」曾我亘由
- 【シンポジウム】「文系研究の地域への係わりと役割」司会・胡光【挨拶】井口秀作法文学部長
- 会場66人、Web66人参加
- 3月8日 教育研究評議会(胡)
- 3月10日 ミュージアム運営委員会(胡)
- 3月10日 香川県文化財保護審議会(胡)高松市
- 3月10-24日 フィリピン調査(菅谷)ピガン、ナルバカン、サンタ・マリア等のローマ・カトリック教会、ヌエバ・セゴビア大司教座文書館、ブルゴス博物館、マニラ首都圏アヤラ博物館、フィリピン国立文書館等
- 3月13・14日 大洲市神社絵馬調査(胡ほか)大洲市
- 3月14日 伊方原発資料現地報告会(中川)八幡浜市
- 3月14日 聖人崇敬・奉納物に関する調査(田島)ミラノ
- 3月15日 伊予市文化財保護審議会(胡)伊予市
- 3月15日 Workshop: Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regio ハイブリッド25名 メンドリジオ
- 【研究報告】Repräsentationen der Mobilität: Exvoto in den oberösterreichischen und niederbayerischen Wallfahrtskirchen 田島篤史
- 3月16日 香川県立ミュージアム運営委員会(胡)高松市
- 3月17-19日 高知県史調査(胡)高知市
- 3月17日 マドンナ・デル・サッソ(サクロ・モンテ)の調査(田島)ロカルノ
- 3月18日 自然博物館および歴史博物館にて史・資料調査(田島)ルツェルン
- 3月19日 ベネディクト会大修道院にて奉納物の調査(田島)アインジーデルン
- 3月19日 おへんろフォーラム「地域が支えた四国遍路とその文化」講演(胡)久万高原町
- 3月20日 ナレーション社打合せ(胡)新居浜市
- 3月20日 久松常盤会打合せ(胡)松山市
- 3月22日 愛媛県文化振興財団文化講座「愛媛俳句、文化講座10 法華津峠の西村清雄、松山の洲之内徹、今治教会の徳富蘆花など」(青木)松山市
- 3月22日 教育研究評議会(胡)
- 3月24日 毎日新聞センター紀要胡論文紹介
- 3月25日 紀要8号刊行
- 3月28日 道後温泉協議会(胡)オンライン
- 3月28日 松山市文化財保護審議会(胡)松山市
- 3月28日 社会連携推進会議(胡)
- 3月29日 丸亀城整備委員会(胡)丸亀市
- 4月2日 ミュージアム撤収(胡ほか)
- 4月3日 辞令交付(胡・高橋・西)
- 4月3日 第104回シュンポジオン講演(田島)松山市
- 4月3日 松山百点取材対応(胡)
- 4月7日 伊予銀行会議(胡)
- 4月8・9日 神戸大学科研会議(胡)神戸市
- 4月10日 松平公益会打合せ(胡)高松市
- 4月12日 教育研究評議会(胡)
- 4月17日 所蔵者加藤氏来訪(胡・寺内・中川)
- 4月17日 台湾中央研究院民族学研究所黄約伯氏来訪(中川)
- 4月17日 新居浜市史会議(胡)新居浜市
- 4月18日 黄約伯氏調査同行(中川)
- 4月19日 砥部町社会教育課来訪(胡)
- 4月21日 社会連携推進会議(胡)

- 4月26日 伊予銀行地域文化活動助成贈呈式(胡)
- 4月28日 徳島大学モートン氏来訪(胡・中川)
- 5月1日 国立歴史民俗博物館会議(胡) オンライン
- 5月6日 香川県立ミュージアム空海展調査(胡) 高松市
- 5月10日 文系センター会議(胡)
- 5月11日 四国経済連合会来訪(胡)
- 5月12日 社会連携企画会議(胡)
- 5月13日 高松市歴史資料館講演「全讃史とその時代」(胡)
- 5月14日 伊予史談会(胡・川島) 松山市
- 5月15日 社会連携推進会議(胡)
- 5月17日 教育研究評議会(胡)
- 5月18日 道後温泉協議会(胡) オンライン
- 5月19日 地域協働審査会(胡)
- 5月19日 城下町大学講演会(胡) 松山市
- 5月20日 愛媛大学人文学会講演会「近代移行期のスペイン領マニラについて」(菅谷) 松山市
- 5月24日 法文学部戦略経費ヒアリング(胡・川島・中川)
- 5月25日 地域協働審査会(胡)
- 5月28日 遍路つかさの会講演(胡) さぬき市
- 5月29日 新居浜市史来訪(胡)
- 5月29日 センター運営委員会(胡・高橋・中川・西・藤田)
- 5月31日 国立歴史民俗博物館会議(胡) オンライン
- 6月1日 へんろ資料館運営委員会(胡) さぬき市
- 6月5日 読売新聞取材対応(胡)
- 6月7日 写し霊場会議(胡・中川)
- 6月8日 新居浜市史会議(胡)
- 6月9日 愛媛県歴史文化博物館来訪(胡)
- 6月11日 大洲市神社絵馬調査(胡ほか)
- 6月14日 ミュージアム運営委員会(胡)
- 6月14日 教育研究評議会(胡)
- 6月15日 三重大学来訪(胡・中川)
- 6月17日 大洲市神社絵馬会議(胡ほか)
- 6月18日 巡礼遍路研究会(胡) 善通寺市
- 6月19日 千種家調査(胡)
- 6月22日 社会連携推進会議(胡)
- 6月22日 砥部町社会教育課来訪(胡)
- 6月26日 地域協働センター西条運営委員会(胡)
- 6月30日 香川県生涯学習文化財課打合せ(胡)
- 7月5日 毎日新聞センター紀要井上淳論文紹介
- 7月10日 香川県文化財保護審議会(胡) 高松市
- 7月12日 教育研究評議会(胡)
- 7月14日 社会連携推進会議(胡)
- 7月15日 京都八坂神社調査(胡) 京都市
- 7月19日 NHK取材対応(胡)
- 7月20日 愛媛県高齢者大学講演(胡) 松山市
- 7月23日 遍路道会議講演(胡) 松山市
- 7月24日 香川県庁世界遺産会議(胡) 高松市
- 7月27日 図書館岩屋寺こけら経調査(胡ほか)
- 7月28日 センター科研研究会「世界に宣伝された四国遍路」モートン常慈(徳島大学)、「法律第十一号「癩子防二関スル件」(1907年)の位置づけ—公権力による住民の移動管理の文脈において—」中川未来(愛媛大学)、オンライン
- 7月29日 放送大学公開講演会「四国遍路研究と関わり続けたいギリス史」(吉田) 松山市
- 7月29日 香川歴史学会開催の四国地域史研究連絡協議会シンポジウム「古代四国における都離間・地域間交流」参加(胡・川島) 高松市
- 7月29日 熊本大学科研会議(胡) オンライン
- 7月30日 大洲市神社絵馬調査(胡ほか) 大洲市
- 8月4日 国立歴史民俗博物館、愛媛県歴史文化博物館と展示に係る覚書を締結(胡)
- 8月5日 香川県文化財保護協会70周年講演会「西讃の霊場と遍路文化」(胡) 観音寺市
- 8月8日 丸亀城整備委員会(胡) 丸亀市
- 8月9日 社会連携企画会議(胡)
- 8月10日 高松市近代資料調査会議(胡) 高松市
- 8月15日 BS松竹取材対応(胡)
- 8月18日 伊予市文化財保護審議会(胡) 伊予市
- 8月18日 愛媛県札所調査委員会(胡) 松山市
- 8月23日 千種家調査(胡) 西条市
- 8月24日 社会連携推進会議(胡)
- 8月24日 新居浜市史編纂室来訪(胡)
- 8月25日 香川県立ミュージアム運営委員会(胡)
- 8月28-30日 博物館実習(胡・川島・寺内・中川)
- 8月30-31日 徳島国分寺調査(胡ほか) 徳島城博物館
- 8月31日 モートンコレクション借用(胡) 徳島大学
- 8月31日 17大学法文学部長会議回答作成(胡)
- 9月1-2日 善通寺調査(胡ほか) 香川県立ミュージアム
- 9月3日 熊本大学科研会議(胡) 熊本市
- 9月4-8日 高知県史調査(胡ほか) 高知市
- 9月9日 災害文化と地域社会研究会報告「小松藩会所日記にみる災害」(胡) オンライン
- 9月12日 BS松竹撮影(胡) 10/28, 11/4 放映
- 9月13日 教育研究評議会(胡)
- 9月15日 社会連携推進会議(胡)
- 9月17日 国立歴史民俗博物館資料貸出(胡)
- 9月18日 大洲市神社絵馬調査(胡ほか) 大洲市
- 9月20日 国分寺調査(田島) 今治市
- 9月20日 観光庁ロングストーリー地域コンテンツ連携促進打合せ(胡)
- 9月22日 ミュージアム展示打合せ(胡)
- 9月24日 文系センター合同シンポジウム「弘法大師信仰と地域社会」(南加記念ホール)
- 【挨拶】 若林良和(社会連携推進機構長)
- 【講演】 「善通寺と善通寺地域」守田逸人(香川大学教授)
- 【報告】 「空海と平賀源内」福田安典(日本女子大学教授)
- 「松山久谷地区におけるお接待を活用した地域コミュニティの活性化」寺谷亮司(地域共創研究センター長)・渡邊洋心(大学院) / 「弘法大師誕生地をめぐる係争」胡
- 9月26日 国立歴史民俗博物館「四国遍路・文化遺産へのみちゆき」共催(胡) 2月25日まで
- 9月26日 愛媛県まなび推進課来訪(胡)
- 9月27日 えひめ文化財防災研修会(胡・中川) 大洲市
- 10月1日 愛媛大学ミュージアム「弘法大師生誕1250年弘法大師の生涯と信仰のかたち」陳列(胡ほか)
- 10月2日 愛媛県庁四国遍路史料集打合せ(胡・寺内)
- 10月4日 社会連携企画会議(胡)
- 10月4-5日 徳島県伊島調査(寺内) 阿南市

- 10月7日 日本技術士会講演「四国遍路と世界遺産をめぐる動向」(胡) 高松市
- 10月11日 愛媛県文化振興財団文化講座「愛媛俳句、文化講座05 深川正一郎と川之江、平家落人部落の逸話など」(青木)
- 10月11日 教育研究評議会(胡)
- 10月13日 本山観音堂鰐口調査(胡) いの町
- 10月17日 新居浜市史調査(胡) 新居浜市
- 10月19日 山岳修験学会会議(胡) 徳島市
- *10月20日 国の文化財審議会が国史跡「伊予遍路道」に明石寺道・大寶寺道・八坂寺境内を追加指定の答申
- 10月23日 社会連携推進会議(胡)
持続可能な道後温泉協議会補助金事業「道後の文化財再発見」(胡)
- 10月25日 松山市文化財保存活用地域計画会議(胡)
- 10月28日 『歴史研究』715号、特集「四国遍路」刊行
- 10月28日 公開講演会・研究集会／南加記念ホール
【挨拶】若林良和(愛媛大学理事・副学長、社会連携推進機構長)、胡光(センター長)
【講演】「古代・中世史料から読み解く四国遍路」大石雅章(鳴門教育大学名誉教授)
【研究報告】「空也と辺地修行」寺内浩(愛媛大学名誉教授)、「一次史料出現初期の札所寺院について—東寺百合文書にみえる札所寺院—」守田逸人(香川大学教育学部教授)、「伊予の中世史料から探る弘法大師信仰と四国遍路」川岡勉(愛媛大学名誉教授)、「四国遍路板碑について—土佐を中心として—」岡本桂典(高知県文化財保護審議会会長)
【シンポジウム】弘法大師生誕1250年 古代・中世の四国遍路／コーディネーター 胡光
【挨拶】井口秀作(法文学部長)
【共催】愛媛大学法文学部、愛媛大学人文学会、四国遍路世界遺産登録推進協議会
会場参加98名、web参加42名
- 11月2日 新居浜市史編纂室訪問(胡)
- 11月3日 伊達博物館調査(胡) 宇和島市
- 11月6日 高松市教育委員会打合せ(胡) 高松市
- 11月8日 教育研究評議会(胡)
- 11月9日 千種家調査(胡)
- 11月10日 生涯学習センター講演「弘法大師誕生地」(胡)
- 11月15日 道後ひみつジャナイ基地パネル展陳列(胡)
- 11月15日 四国遍路史料集会議(胡・川岡・寺内)
- 11月16日 社会連携企画会議(胡)
- 11月17日 久松常盤会来訪(胡)
- 11月17日 持続可能な道後温泉協議会補助金事業「ドウゴの歴史と魅力を、少しだけ語ろう。」(中川)
- 11月18-27日 フィリピン調査(菅谷) フィリピン国立文書館
- 11月22日 愛媛県文化振興財団文化講座「愛媛俳句、文化講座06 卯之町、庄屋の清水家と近代学校について」(青木)
- 11月23日 空海セミナー「弘法大師生誕1250年」(胡) さぬき市
- 11月24日 持続可能な道後温泉協議会補助金事業「ドウゴの歴史と魅力を、少しだけ語ろう。」(中川)
- 11月27日 社会連携推進会議(胡)
- 11月28日 道後ひみつジャナイ基地展示撤収(胡)
- 11月29日 愛媛資料ネット総会(胡・川島・中川)
- 12月1日 香川県庁世界遺産会議(胡) 高松市
- 12月6日 渡部家調査(胡) 松山市
- 12月6日 社会連携企画会議(胡)
- 12月7日 高齢者大学「四国遍路と世界遺産」(胡)
- 12月7日 新居浜市史編纂室来訪(胡)
- 12月9日 地域協働センター西条「四国遍路と世界遺産」(胡) 西条市
- 12月11-18日 スペイン調査(胡) ガリシア州立図書館、巡礼博物館、巡礼事務所、大聖堂博物館、巡礼路
- 12月16日 四国東洋学研究者会議「近代移行期のスペイン領マニラに生きた人々—対外貿易の多角化と地域秩序の変容の下で—」(菅谷) 松山市
- 12月20日 NHK取材対応(胡) 1月1日放映
- 12月22日 高知県史会議(胡) オンライン
- 12月26-28日 高知県史調査(胡) 宿毛市
- 【註】*印は、社会の動き。センターへ寄せられた多数の質問・要望への回答記録は割愛した。
- 【論考・刊行物】令和5年1月~12月
青木亮人「詩歌散策 俳句 酒井黙禅」『文化愛媛』86、1/17
青木亮人「俳句と水と我が暮らし」ミツカン広報誌『水の文化』73、2/1
胡光「四国遍路とサンティアゴ巡礼」『時空旅人』75、7/23
菅谷成子「フィリピンのキリスト教化」青山亨他『アジア人物史6 ポスト・モンゴル時代の陸と海』(アジア人物史第6巻) 集英社、12/16
田島篤史「聖ヴォルフガング巡礼—伝説と史実のはざままで—」『隔月インタビュー』12月号
- ▼『四国遍路と世界の巡礼』第8号、3/25
◆論考 特集「四国遍路と比較巡礼論」「観音巡礼のフィールドワークからの逆照射—四国遍路と比較巡礼研究—」浅川泰宏*、「写し巡礼における身体・空間・時間」近藤隆二郎*、「四国遍路に関する民俗文化財の継承と課題—世界遺産・無形文化遺産登録の動向から—」大本敬久* ◆論考 四国遍路編「四国遍路と食文化—讃岐製糖の新史料をめぐって—」胡光、「大正6年自転車遍路がみた札所の様相—知多四国霊場三十一番利生院住職内藤真覚「四国巡拝日記」—」井上淳*◆活動記録
- ▼『歴史研究』715、特集「四国遍路」10/28
「四国遍路の原型—辺地修行の時代」寺内浩／「四国遍路成立前夜—巡礼の萌芽と戦国動乱」川島佳弘／「四国遍路の隆盛—八十八ヶ所の成立」胡光／「四国遍路の盛衰—明治維新による変化とその特徴」中川未来
- ▼愛媛大学ミュージアム「弘法大師生誕1250年 弘法大師の生涯と信仰のかたち」10/2~3/22
ウォルシンガムの聖母—イングランド東部の聖母マリア巡礼地—(吉田正広)／宗教的聖地が果たす地域資源—善通寺を事例として—(兼子純、石黒聡士、濱浪 陽、松崎竜大、佐田修一郎、松下野乃花)／モートン・コレクション(徳島大学モートン常慈*)／弘法大師の生涯と信仰のかたち(胡光ほか)
- ▼「四国遍路と世界の巡礼~愛大研究センター通信~」連載 67青木亮人「香園寺の河村みゆき」(『へんろ』466、1/1)

／68浅川泰宏*「令和三年坂東丑歳疫病退散祈願巡礼」(同467、2/1)／69寺内浩「空也と辺地修行」(同468、3/1)／70小幡尚*「礼所寺院の境内に見る戦争の痕跡～三番礼所・金泉寺の事例～」(『隔月インタビュー』177、6/1)／71西耕生「平安期の助成の『山路み』—かな文学作品にみる実相—」(同177、6/1)／72町田哲*「村人の祈りと弘法大師信仰—光明真言百万遍供養塔—」(同178、8/1)／73守田逸人*「普通寺伽藍図にみえる決壊意識」(同178、8/1)／74小嶋博巳*「六十六部と四国遍路」(同179、10/1)／75モートン常慈*「ハワイからの四国遍路巡拝団の歴史」(同179、10/1)／76田島篤史「聖ヴォルフガング巡礼—伝説と史実のはざままで—」(同180、12/1)／77須藤茂樹*「禅僧卅元、弘法大師の足跡を訪ねる—『丈六寺日鑑』を読む—」(同180、12/1)

▼朝日新聞「しこく遍路考」連載(胡光)

大師誕生地めぐり長く係争(1/16)、礼所成立前の信仰示す岩窟(2/6)、家根板にうかぶ庶民の信仰(3/6)、西行崇徳院へ再会の鎮魂歌(4/3)、大勝金剛像時代超え発見(5/8)、四国の熊野信仰伝える宝物(6/5)、真野長者伝説九州から伝達(7/3) 厳しい自然での修行略式に(8/7)、人数の把握困難かつ重要(9/4)、平安の流行歌聖地探る史料(10/2)、普遍的価値証明へ研究進む(11/11)、大師信仰時代超え地域に(12/4)

▼愛媛銀行『ひめぎん情報』「四国霊場を歩く」連載(胡光)
江戸時代の景観と名所の記憶—有明浜・普通寺・金毘羅をめぐる(301、6/1)

【註】*印は、センター外の協力者。

【研究・活動助成ならびに運営】

- 科学研究費基盤研究(B)「霊場資料学の構築と霊場文化の解明による四国遍路の総合的研究」(研究代表者:胡光、研究分担者:西耕生、中川未来、青木亮人ほか、研究協力者:内田九州男、寺内浩、竹川郁雄、川岡勉、神楽岡幼子ほか)
- 公益財団法人松平公益会(高松市)
- 一般財団法人久松常盤会(新居浜市)
- 愛媛大学四国遍路と世界の巡礼研究会を通じた一般の方からの寄付金
- 愛媛大学基金への一般の方からの寄付金
- 愛媛大学人文学会
- 愛媛大学法文学部
- 愛媛大学社会連携推進機構
- 学長戦略経費「四国遍路・世界の巡礼研究センターにおける四国遍路世界遺産登録推進に向けた研究事業」(社会連携推進機構)
- 法文学部戦略経費「webサイトを活用した「写し霊場」研究の推進と全国展開」(研究代表者:中川未来、研究分担者:胡光、川島佳弘)



▲阿波国分寺調査(徳島城博物館 2.20)



▲文系センター合同シンポジウム(9.24)



▲シンポジウム古代・中世の四国遍路(10.28)



▲弘法大師生誕1250年 弘法大師の生涯と信仰のかたち展



▲モートンコレクションの展示

執筆者一覧

大石 雅章（鳴門教育大学名誉教授／科研協力者）
寺内 浩（愛媛大学名誉教授／科研協力者／協力研究員）
守田 逸人（香川大学教育学部教授／科研分担者）
川岡 勉（愛媛大学名誉教授／科研協力者／協力研究員）
岡本 桂典（高知県文化財保護審議会会長／科研協力者）
福田 安典（日本女子大学文学部教授）
中川 未来（愛媛大学法文学部准教授／科研分担者／兼任教員）

【編集後記】

2024年は、能登半島を中心に発生した地震・津波災害から始まってしまいました。被災者の皆さまにお見舞い申し上げるとともに、被災地における生活の立て直しと、いち早い復興を心より祈念しています。遍路や巡礼をその一環とする地域の歴史文化は、地域社会に欠かせないインフラともいえるべき存在です。痛ましい被害に対し、センターとして直接できることは限られますが、研究・教育・広報の各活動を通じて歴史文化の社会的重要性を明らかにすることで、持続可能な地域社会の構築に寄与したいと決意を新たにしました次第です。

新型コロナウイルス感染症の第5類移行に伴い、2023年10月28日の公開講演会・シンポジウムは、ほぼコロナ禍以前の開催形式となりました。オンライン会議システムによる遠隔参加の併用という形式も定着し、多くの方々にご参加いただくことができました。専門教育科目「地域フィールド実践」では、2024年1月20日に「歩き遍路」授業を実施しました。2024年はうるう年です。愛媛大学の近辺でも逆打ちの巡礼者をお見受けします。しかし授業では順を追って、愛媛県今治市の54番札所延命寺、55番札所南光坊、56番札所泰山寺、57番札所栄福寺、58番札所仙遊寺、59番札所国分寺と歩きました。小雨模様の天気の中、山道を含む約18キロの道程を教員・学生ともに無事まわることができました。

本号には、「古代・中世の四国遍路」をテーマに掲げた公開講演会・シンポジウムの成果、そして御投稿いただいた論考の計7本を掲載しています。是非とも御味読下さい。

最後になりますが、刊行にあたり、表紙の弘法大師像を御提供いただいた太山寺様をはじめ、今年度も各論考の英文要約等を御担当いただいたモートン常慈氏、編集と印刷に御助力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。
(中川未来)

*表紙の写真：「四国最古の弘法大師像」（太山寺所蔵／鎌倉時代／愛媛県指定有形文化財）

*本誌所収の論文は、科学研究費補助金基盤研究(B)「霊場資料学の構築と霊場文化の解明による四国遍路の総合的研究（研究代表者：胡光）の成果の一部である。

*本誌は、愛媛大学法文学部共通経費の配分によって刊行した。

四国遍路と世界の巡礼 第9号

発行日 2024年3月25日 発行
編者 愛媛大学 四国遍路・世界の巡礼研究センター
センター長 胡 光
編集委員 中川未来
川島佳弘
発行者 愛媛大学 四国遍路・世界の巡礼研究センター
センター長 胡 光
〒790-8577 松山市文京町3 TEL&FAX 089-927-9312
E-mail : henro_c@stu.ehime-u.ac.jp URL : https://henro.ll.ehime-u.ac.jp
印刷 アマノ印刷
〒790-0932 松山市東石井一丁目10-30 TEL 089-956-2442